

橋(川を渡るには①)
椽久保・糸井編

(1) 沼須の吊り橋

沼須と椽久保の間には渡し船があった話は知られているがその近くに橋があった。利南村誌によると『慶安年間(1648～52年)片品川に橋を架けた。沼須の川向こうの与助島に耕地が二町歩ほどあり、一般の往来も盛んであった。橋番に須田某が当たって橋銭を徴収していた。沼須の人からの徴収はなかったが他村の者は一銭払って渡った』という記録が残っている。また、『幕末に架橋の計画がされ安政5年(1858年)3月、大橋相談が始まり架橋された』という記録もあるので大水の度に何度も流されたことが伺える。

(2) 二重二見橋

現在もある役場横の橋である。以前は現在の場所よりも100mくらい下流側にあった。糸井側と沼田市側にそれぞれ別の橋があり、中島に土手が築かれそこで

結ばれていた。そこから二重二見橋の名が生まれた。糸之瀬村誌に『現在の県道沿いに宿通りをきて、吹張から河原へ出て、小野屋前から土橋を渡り対岸の沼須へ出る道があった』とある。明治11年、渡り初めをしている記録が残っている。度々の大水で流され、昭和15年現在の位置に木橋吊り橋として竣工された。同31年改修、同59年現在の橋となっている。



① 沼須の吊り橋
② 沼須の古地図
③ 二重二見橋付近

参考 糸之瀬村誌、利南村誌、
昭和村のあゆみ、利南の民俗

昭和村ボランティアガイドの会

森 肇子

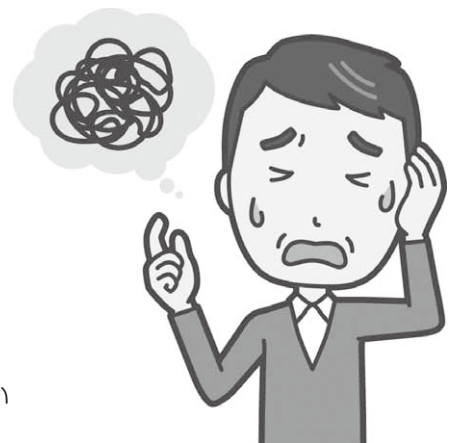


地域包括支援センターだよ!

若年性認知症って何?

若年性認知症とは?

「18歳以上から65歳未満で発症した認知症」です。平均発症年齢は51.3歳で男性に多い傾向があります。医学的には高齢者の認知症との違いはありませんが、本人が社会の中心となり家庭を支えるライフスタイルの視点から考えると、病気だけでなく、様々な問題が大きくなっていきます。



若年性認知症の特徴

- ◆現役で働いている人が多く、ちょっとした物忘れなどでも支障が出やすい
- ◆言動の変化は、家庭よりも職場で気づかれやすい
- ◆体調や言動などの様子の変化があっても、認知症とは思いつかないことがある
- ◆早期に発見され、適切なサポートがあれば社会参加を続けていくことができる

若年性認知症支援コーディネーターって?

若年性認知症と診断された方が自分らしい生活を続けられるように、本人のライフスタイルに合わせた総合的な支援を行います。具体的には、本人のニーズに合った関係機関やサービスとの調整役などがあります。各都道府県に1名以上配置されています。

若年性認知症の支援

群馬県の若年性認知症の支援についての情報がつまった「若年性認知症支援ハンドブック」が群馬県のホームページからダウンロードできます。



問合せ 地域包括支援センター ☎ 30-2121

